

1 受賞団体・個人の名称

かわいかじゅえん

河合果樹園（愛知県豊橋市）

（問い合わせ先）

電話：0532-41-2033

（経歴）

昭和60年に就農し、平成7年から3年間の試行錯誤の末、全国でも極めて珍しいハウスレモンの無農薬栽培に成功。栽培技術の普及やハウスレモンを用いた加工品の販売を通じた地域の活性化、消費者への食育と情報発信など幅広い活動を展開。

（受賞時の経営内容） 露地みかん1.2ha、ハウスマカン0.35ha、ハウスレモン0.19ha、農家戸数1戸



代表：河合浩樹氏

2 生産面の取組

せん定枝を農地還元するとともに、光合成細菌等を散布し、有機物が豊富で、微生物や昆虫等多様な生物が存在する土づくりを行っている。

ハウスレモンでは、ボックス栽培により肥料を効果的に利用。肥料は自家製発酵肥料を中心とした有機質肥料で、樹体調整以外は、化学肥料を使用しない。

露地みかんは、発酵肥料を中心とした無化学肥料栽培、ハウスマカンでは、基肥に発酵肥料、追肥のみ化学肥料を使用。



レモンのボックス栽培

ハウスレモンでは、土着天敵が活躍できる生態系がハウス内に整い、無農薬栽培を実現。ハウスマカン、露地みかんにおいても、天敵を効果的に利用するため、できる限り農薬散布を控えている。また、露地みかんでは、薬液がかかりやすい樹形を改造し、スピードスプレーヤの効果的な利用により、農薬の散布量を大幅に削減。

ハウスマカンでは、省エネ対策として通常の2重被覆を3重被覆にし、夜間のハウス内温度を低めに設定する等して重油使用量を30%程度削減。

3 経営面の取組

国産の無農薬レモンは希少価値があり、インターネットを利用した消費者への直接販売等を実施。

また、地元の福祉施設やスーパーと共同開発し、「初恋レモン」というブランド名で加工品を販売。



レモンを使ったシフォンケーキ

ハウスみかんでは、市場出荷だけでなく、小売店との直接取引及び直売を組み合わせ、有利販売を実施。露地みかんは、愛知経済連の「いきいき愛知」農産物の認証を受けている。

4 取組の成果

環境保全型農業の実践により、農薬費、肥料費、光熱水費の合計は慣行栽培と比較してハウスレモンで43%、ハウスマカンで33%、露地みかんでは51%削減。10a当たり生産量は、慣行栽培と同等。

希少価値や高品質が認知されたことにより、ハウスレモンの販売額が増加。露地みかんにおいても、インターネット販売やオーナー制の導入により販売額が増加。

5 地域社会への貢献

地域のミカン農家と共に生産出荷グループを立ち上げ、露地みかんの無化学肥料栽培と天敵を利用した減農薬栽培技術を組合員に普及。

レモンを購入してくれる消費者をほ場に招いたり、地元の学校の授業の一環としてほ場見学を受け入れている。

また、耕作放棄園を借り受けオーナー園として再生し、収穫祭を開催。

こうした消費者との積極的な交流を図ることにより、消費者の農業への理解を深めている。



オーナー園の収穫